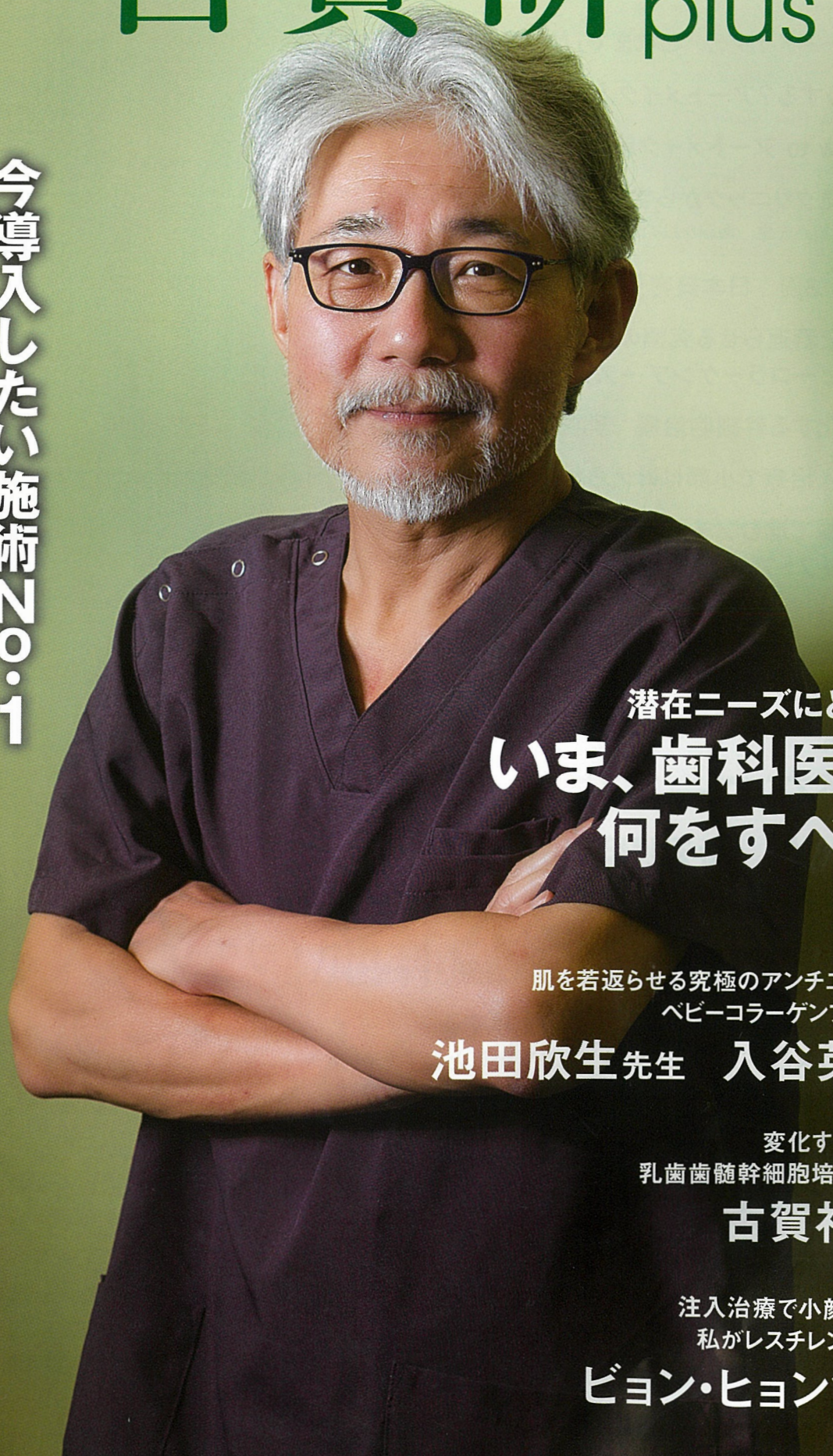


自費診療で経営を強くする

自費研⁺plus

vol.
22
April
2020

今導入したい施術No.1
医療アートメイクとは？



潜在ニーズにどう応える
**いま、歯科医師は
何をすべきか**

肌を若返らせる究極のアンチエイジング治療
ペビーコラーゲンブースター療法

池田欣生先生 入谷英里先生

変化する幹細胞治療
乳歯歯髄幹細胞培養上清液とは

古賀祥嗣先生

注入治療で小顔は叶えられる
私がレスチレン®を選ぶ理由

ビョン・ヒョンソブ先生

アートメイクの「これまで」と「これから」

医療としての安全性担保のため、医療アートメイク学会 代表理事として活動を行う池田欣生先生。
医師からみた業界の課題、学会の今後の展望について伺った。



池田欣生先生

医療アートメイク学会 代表理事、東京皮膚科・形成外科 総院長／大阪医科大学卒業。大阪医科大学で故田嶋定夫教授(大阪白壁美容外科顧問)、東海大学病院で谷野隆三教授(十仁病院顧問)の下で形成外科・美容外科を学ぶ。2004年に銀座いけだクリニック開院。安全で安心の美容医療の普及に努めている。



医療アートメイク学会
Medical Society of Permanent Makeup

2005年、厚生労働省がアートメイクを医療行為として認定し、医師または医師の指示のもと、看護師が施術を行うことが義務付けられました。それまではサロンやエステでの施術が主流であったアートメイクですが、人気が高まりにつれ、不衛生な環境や知識経験不足の施術者によるトラブルが多く聞かれるようになっていたのです。

眉下切開術を行う際に、アートメイクをしていくほうが、より美しい仕上がりに見えます。こうした理由から術前にサロンで施術を受けることをお勧めしていたのですが、医療法の改定により、それは医師として行ってはいけないことになりました。そのため、自身でアートメイク施術の勉強をすることにしました。

医療アートメイクと学会設立

た。こうした状況を改善すべく、私たちが学会は、警視庁と厚生労働省の協力を受け、医療アートメイクの啓蒙活動を行ってきました。

最近では施術資格をもたないサロンでの施術件数も減少傾向にあります。しかし2015年にも、無資格者にアートメイク施術をさせたとして、医師法違反等の疑いで、札幌市のクリニック院長らが逮捕されています。法律を知らずにやってしまったことで逮捕されたうえに、半年間の医師免許停止という重い処分が科せられました。

このように無知から起こる事件をゼロにするためにも、学会では医療アートメイクの啓蒙活動を行うとともに、アートメイクのカテゴリを「相対的医

療法により医療行為は宣伝禁止とされているため、医療機関ではないサロンのような宣伝を打ち出すことはできません。「医療機関で受けるもの」という認識は広まりづらく、患者様が無資格者のところへ行ってしまいう状態は改善されませんでした。針の使いまわしなどによる、B型・C型肝炎などの感染症リスクは後を絶ちません。

こうした状況を鑑みた警視庁が、トラブルを起こした無資格サロンなどの施術業者の摘発に動き出しました。しかし、警察は問題が起きてからでなければ稼働できず、代わりに施術業者へ色素などを販売する卸業者が逮捕されるようになったのです。

卸業者の逮捕は、私たち医療従事者にとっても大打撃でした。海外からの個人輸入で対処しようと調べてみると、これまで卸業者を通して使っていた色素

行為」とする法律制定のために動いています。現在は一般社団法人ですが、今後はさらに規模を大きくして特定公益法人にし、トラブルが起こった際、法律に医療従事者側の声を反映させる体制づくりを目指しています。

増えるニーズと求められる対応

医療補助目的のアートメイクには、乳房再建時の乳輪・乳頭アートメイクや、抗がん剤治療で眉が抜け落ちた時のための役割がありました。超高齢化が進むわが国の現状を考えると、加齢とともに薄くなる眉などに悩む方が増えると思われる。そのような年齢層の方に「安全に施術ができる」とアプローチできれば、ニーズはさらに増加するのではないのでしょうか。

医療行為である以上広告はできませんが、高齢者やがん患者の方に限らず、毎日の化粧をレベルアップさせたものに見せられるなど、アートメイクには日々の負担軽減と美しさの両立というメリットもあると、一般の方にも伝えていきたいです。残念ながら、医療従事者のなかには一度勉強しただけで、情報のアップデートを怠

のなかに、実は発がん性物質が含まれていたことが発覚しました。海外でのアートメイクの位置づけは「医療」ではなく、「文化」です。「FDA認可ですよ」と言われ信用していましたが、そもそも製薬会社で作ったものではなく、安全性のエビデンスが不十分だったのです。

アートメイクを医療行為とするのであれば、器具や施術者はもちろんのこと、色素も全て安全なものであるべきです。個人の力では正しい情報の収集にも限界があります。それを改善すべく、アートメイクを医療の場で行っていた団体を集め、2017年2月に「医療アートメイク学会」を発足させました。

学会設立の一番の目的は安全性の確立ですが、もうひとつ「メイクテクニクの向上」という目的もあります。

つてしまう人もいます。美容技術は日々の進歩やトレンドの移り変わりが早い世界です。10年前の技術をいまだにやっていると、正直なところお勧めできません。患者様には、学会などに参加して、最新情報を集めている姿勢が、ホームページやSNSから伝わってくるようなクリニックをお薦めしたいですね。

学会の課題と今後の展望

クリニックのスタッフには、学会以外のスクールにも参加させるなど、技術研鑽の機会を設けるように努力しています。課題もあります。トレンドの施術と、安全な施術に多少の乖離があるのです。私自身、アートメイクを20年近くやっていることから、「こうすればトラブルが最小で済む」という方法をつかめるようになり、学会でもその方法を推奨し教えるようにしています。しかし現在のトレンドは、毛流れを一本一本線で引いていくアメリカ発の技術です。ナチュラルに仕上がることから人気な反面、一本でも線が多くなると、クレームにつながる恐れのある方法だという印象があります。このような方法をメインとして打ち出すところへ患者様が集まれば、人気が高まるのは当然です。流行を取り入れな

私自身はプロからメイクを教わっていますが、通常業務のなかで、医師や看護師がメイクを学ぶ機会はありません。デザイン力の必要なアートメイクの技術力向上のために、こうした学習の場は必要不可欠と考えたのです。

学会の役割と意義

日本・中国・韓国は、アートメイクを法律上医療行為と定めている数少ない国です。そのなかでもいち早く医療行為としての法整備を行った韓国には、公認の色素がありました。しかし後の調査で菌が含まれていたことがわかり、KFDA(韓国食品医薬品安全庁)により減菌が義務付けられました。

学会立ち上げ構想当時の2007年は、医師法違反件数の半分以上をアートメイク関連のものが占めていました。が、安全性も担保できるようにしていくことが今後は必要となるでしょう。

アートメイク技術者の雇用も難しい課題です。看護学校と協力して、アートメイクができる看護師の資格を作ろうと動いています。ゆくゆくは検定試験もより高度なものにして、「医療アートメイク学会に参加すれば、確かな技術が身に付けられる」という立ち位置にしたいと考えています。これらが実現すれば、退職者が出た場合に看護学校からの紹介で補えるような仕組みの構築もできると思います。

現在は韓国で認可を受けた色素が、安全性が高いとされていますが、学会公認の日本製色素を作りたいと思っています。タトゥーも同様ですが、一度入れた色素の除去はレーザーでも困難です。レーザーメーカーとの協力により、比較的簡単に消せる色素開発の実現に向け、基礎研究から進めているところではあります。

講演会でアートメイクの普及・啓蒙を行う池田理事



どうする？アートメイク人材育成

高度な医療アートメイク技術を備えた人材育成に力を注ぐ二団体に、業界の現状と課題について伺った。

美容医療をベースに 確かな技術と安全性で 国内シェアNo.1

バイオタッチジャパン
(株式会社NMT Japan)
土屋恵美代表取締役

バイオタッチジャパンは、医療アートメイク技術者養成学校としては、国内最大で最も古い歴史を持つバイオニアです。専門教育機関および製品メーカーとしてアメリカで設立されたバイオタッチ社の日本総代理店として、世界43カ国とネットワークを結び、世界最新の情報や技術を取り入れています。

美容の観点からの審美眼

当校の最大の特徴は、長年美容業界で活躍してきた学校長・赤羽根優子の指導のもと、患者の要望にあわせて高

度な施術を提供できる技術者を多数輩出しているという点です。

アートメイクには、患者をより美しくする美容目的のもと、患者が失ったものを取り戻す医療補助を目的とするものがあります。近年は後者のニーズが増えてきました。医療アートメイクは、外科手術などとは比較にならないほど簡単な技術だと思われがちですが、繊細で高度なテクニクと、確かな審美眼が必要です。やけどや皮膚線条、白斑や乳輪乳頭のカモフラ



赤羽根優子校長(左)と、土屋恵美代表取締役(右)

ジュなど、患者のQOL維持と笑顔のために大きな力を発揮します。私たちはこうした技術で、多くの患者の自信を回復させ、生きる希望を与えてきました。今後もこの需要は高まると思われます。

技術者とクリニクの 架け橋をめざす

当校では座学による理論習得以上に、実践練習と卒業後のサポートに力を入れています。スクールでは、4日間の講習と2日間の実技指導を受けていただきますが、これはあくまでスタートラインです。実際に現場で施術を行うと、さまざまな疑問や課題が出てきます。その解決の場として、当校の卒業生には、サポート制度を設けています。また、インスタクターがオンラインで質問に答える環境も整えています。

今後は、確かな技術を身につけた技術者と、信頼できる医療機関とのマッ



月1回実施している会員向けの技術者カンファレンスの様子

生涯学習のできる 環境確立と 発展・普及に努める

一般社団法人
日本メディカルタトゥー協会
釜山美保代表理事

サロン施術でのトラブルなどをうけ、医療行為となったアートメイクですが、いまだに無資格者による施術は後を絶ちません。さらに、道具の流通や教育面でも問題は起きています。2020年から新規参入しようとするスクールも沢山あると聞いていますが、誤ったやり方が広まると、医療アートメイク業界は近い将来崩壊してしまう恐れがあります。

協会の設立と目的

こうした状況から看護師や自費診療



日本メディカルタトゥー協会
釜山美保代表理事

を守るために、2016年、日本メディカルタトゥー協会は設立されました。医療技術として、より安全・安心な技術の確立と普及をめざすと同時に、消費者への正しい情報の公開とメディカルタトゥーの発展・普及に努めています。美容や自費医療に「絶対」はありませんが、医療で施術をする以上、「安全」は当たり前です。また、技術の向上も当然求められます。医師のように学会などの継続学習の場がありません。看護師のために、世界水準での教育の学舎を作り、看護師たちが世界レベルの医療技術の確立に向けて、生涯学習を徹底できる場を設けることも、当協会の目的のひとつです。

協会で習得できるN1J

当協会には、治療などによってダメージを受けた部分を再現する医療補助技術である「トリートメントタトゥー」と、美容を目的とした「コスメティックタトゥー」の2コースがあります。どちらも、まずは医療アートメイクとしての本質、立ち位置を考える基礎講習を受けていただき、医療人としてアートメイクを外から見てください。医師から言われたことをただやるだけ

では見えてこない、自分たちがやるべきことがここで分かるはず。また、医療でしか解決できない難題のガイドラインを、医師たちとの協力で作っていくことも必要だと考えています。美容業界で培った基礎に医療の考えをプラスして再構築する。これが当協会の教育方針です。

講習の流れとフォローアップ

当協会では、医療で展開する基礎をベースとして、コスメティックとトリートメントそれぞれの分野での技術者を育成していきます。基礎講習のあとに受講者やクリニクがめざす方向をヒアリングし、目標に導けるようなコ

チングサポートも行っていきたくないと考えています。「技術を身につけたのに、年齢制限で就職先が見つからない」という受講生や、「アートメイク参入のため、しっかりと技術者を探している」というクリニク様双方にメリットがあり、アートメイクシーンのさらなる活性化につながると確信しています。

◀今後のスケジュールなど、詳細はサイトでご確認ください



医療従事者対象：無料セミナーのご案内！
医療アートメイク、パラメディカルビグメンテーション(医療補助)の講習内容や、導入までの流れ・商材の説明など、アートメイクのあらゆる質問にお応えいたします！
日時：2020年4月15日(水)
開始時間：13時～
会場：Biotouch Japan事務局

ースを提案し、組み合わせさせていただきます。講義終了後も、フォローアップのための無料カンファレンスを毎月1回行い、現場に出た後の悩みや疑問にも、応えられるバックアップ体制を整えています。

アートメイクは見た目や心のアンチエイジング、予防医学、高齢者ケアに関わることのできる、新しい治療法であり、ビジネスです。これまで美容業界で行っていた方法をそのまま医療に移行しても、決してトラブル症例の解決にはなりません。当協会では、医療でのエビデンスに基づき、安全で安心できる技術者の育成と医療技術の習得をめざしています。

- 4/12(日) 医療アートメイク無料セミナー【大阪会場】
- 4/26(日) ヘアスカルプアートメイク講習【名古屋会場】
- 6/28(日) 第4回JMATA学術集会
- 医療アートメイクセミナー【名古屋会場】
- 7/19(日) 技術者認定試験
- 8/30(日) 医療アートメイクセミナー【福岡会場】
- 10/25(日) 医療アートメイクセミナー【東京会場】
- http://jmata.or.jp
- info@jmata.or.jp